

農作物生育・技術情報2号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況と技術対策（6月1日現在）中苗

移植後の好天により、活着は順調に進んでいますが、一部、水深が深く水没している稲が見られます。天候が良いときは積極的に浅水にし、地温を上昇させ、初期分けつの発生を促しましょう。

稲わらをすき込んだ水田は、水温の上昇により「ワキ」の発生が心配されます。6月中旬を目処に軽い中干しや水の入れ替えなどを行いましょ。

品種名	生育状況			技術対策
	項目	R1年	平年	
ななつぼし	草丈	18.0cm	15.5cm	<ul style="list-style-type: none"> 活着後、気温が高く日照のある時は、茎数確保のために3～4cmの浅水に管理する。ただし、低温や強風時は7～8cm程度のやや深水にする。 水田の水温目標 25℃以上
	葉数	4.3葉	4.2葉	
	茎数	92本/m ²	91本/m ²	
	活着期	5/29	5/30	
	遅速日数	+1	—	

〈除草剤は適期に散布する〉

移植作業後ノビエやホタルイ等の雑草が目立ってきます。雑草の葉数がすすむと除草剤の効きが悪くなるので、早めに処理しましょう。除草効果を高めるために散布時は完全に止め水とし、散布後4～5日間は田面を露出させず湛水を保つようにしてください。

2 牧草生育状況（6月1日現在） ～ 牧草の生育は平年並 ～

チモシーの生育は平年並、オーチャードグラスは出穂始です。収穫時は「刈り高10cm程度の高刈り」により、土砂の混入防止や二番草の再生促進及び増収が期待できます。

作物名	生育状況			遅速日数	摘 要 (作業期節・特記事項)
	項目	R1年	平年		
牧草(チモシー)	草丈(1番草)	61.7cm	62.0cm	±0	生育は平年並です。

3 サイレージ用とうもろこし生育状況（6月1日現在）

作物名	生育状況			遅速日数	摘 要 (作業期節・特記事項)
	項目	R1年	平年		
100日クラス	草丈	9.5cm	7.7cm	+3	は種作業が順調に進み、生育は進んでいる。
	葉数	2.5枚	1.6枚		
	出芽期	5/26	5/29		

雑草対策：茎葉処理の場合、薬剤ごとに使用時期が異なります。効果を高めるためほ場を観察し適期に散布しましょう。

〈代表的な茎葉処理剤の使用時期〉 詳細はJA資材課、普及センターまで問合わせてください

商品名	対象雑草	使用時期
ワンホープ乳剤 ※	イネ科雑草、広葉雑草	作物の3～5葉期
アルファード液剤	イネ科雑草、広葉雑草 (イビ・一年生雑草)	作物の3～5葉期 (イビは6～7葉期)
ゲザノンゴールド	イネ科雑草、広葉雑草	作物の2～4葉期

※適応品種以外に使用しないこと

4 主要野菜の生育状況と技術対策

(1) 各作物とも育苗中及び定植直後は、夜間の低温対策と日中の高温対策に注意した温度管理に努めてください。

(2) 農薬散布の際は飛散防止に万全な対策を行いましょう。

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：2段目収穫中。 4月定植：1段目収穫中、5～7段花房が開花。 5月定植：3～4段花房が開花。 全体 ・4～5段でがく枯れ、カリ欠が見られる。 ・灰色かび病、萎凋病、かいよう病、アザミウマ類、網入り果、軟果、銀粉果の発生が一部ほ場で見られる。	・3～4月定植は着果数の増加に伴いかん水・追肥量を増加し、果実肥大を促進させる。 ・水量は1株当たり1～2リットル。 ・追肥量は草勢に応じ窒素成分で1回当たり1～2Kg/10aを目安とする。 ・カリは窒素量の2倍施用する。 ・一度に多量かん水を行うと軟果が発生するので注意する。
ハウス軟白ねぎ	・1月定植収穫中。 ・ハモグリバエ類、タマネギバエ、アザミウマ類の発生が見られる。	・ハウス周辺の除草を徹底する。 ・残渣は速やかに処分する。 ・粘着版の設置で発生を確認し早期の防除を心がける。
ハウス立茎アスパラガス	・立茎移行期。	
かぼちゃ	・5月15日から定植が開始され順調に生育している。 ・一部ほ場で、高温による葉やけが発生している。	・6月上旬から被覆資材を外す。 ・病害の発生が懸念されるため、早期予防に努める。

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されています。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

5 畑作の技術対策

(1) 秋まき小麦 ～赤かび病防除～

防除時期を迎えています。出穂状況を確認しましょう。

赤かび病に最も感染しやすい時期は開花期間です。開花始と1週間後の2回の防除が基本となります。

開花始に降雨が予想される場合は、事前に散布を行うなど防除適期を逃さないように注意しましょう。

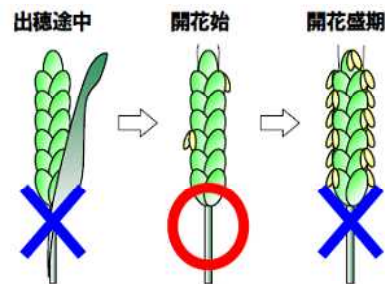


図1 赤かび病1回目の防除

例) 赤かび病防除

	防除時期	使用農薬名
1回目	開花始	シルバキュアフロアブル、または、プライヤ水和剤(葉枯症)
2回目	1回目防除から1週間後	ベフトップジンフロアブル

* プライヤ水和剤は葉枯症に効果が高い



基準タンパク維持の為、防除ごとに尿素2%溶液を散布しましょう。(100L/10a)

(2) 大豆 ～わい化病対策～

大豆の種子塗沫処理にクルーザー FS30、又は、クルーザー MAXX を使用していない場合は、初生葉展開時にアブラムシの防除を行いましょう。

(3) ばれいしょ

萌芽揃いの1週間後に中耕兼ねて半培土、その1週間後に本培土を実施しましょう。本培土が遅れると根やストロンの切断につながるので注意しましょう。

◎農薬の使用に際しては、使用方法と使用上の注意事項を必ず確認しましょう。

◎農作業の合間には必ず休息をとり、疲労回復を図りましょう。